

令和2年度 学校評価表

東広島市立磯松中学校

学校教育目標	確かな学力を身に付け、心豊かで活力にみちた生徒の育成	経営理念	安心と活気のある学校づくりを推進し、地域に愛され信頼される学校を築く ○学力の向上を図る学校 ○規律と活気のある学校 ○組織的運営をする学校
--------	----------------------------	------	---

評価計画				前期指標	後期指標	自己評価		分析と今後の取組		
中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価指標			10月	3月			
学力の向上を図る学校	基礎・基本の確実な定着を図り、自ら学ぶ生徒を育成する。	(1)生徒が「分かった」「楽しい」と感じる授業づくりを推進する。	○「磯松授業スタイル」の実践を積み重ねる。 ○学習規律(ペル着・私語)の徹底を図る。 ○「聴く」「書く」「話す」活動を取り入れた授業を実施する。 ○小中連携による教師力、生徒の学力の向上を図る。	①「授業が分かる・できた」と答える生徒の割合を90%以上にする。 ②校内授業研究(教科、領域等)において「話し合い活動」を取り入れた授業を公開する教職員の割合を100%にする。 ③「自分の考えをまとめ、発表できる」生徒の割合を80%以上にする。 ④「他者(生徒、教職員等)の話を聴く」「自分の考え書く」「自分の考えを振り返ったり、まとめたり発表する」ことができる生徒の達成感の割合を1年70%、2年75%、3年80%以上にする。	①89.6% ②42.1% ③71.8% ④92.0%	2	2	①1年生94.6%、2年生86.3%、3年生86.6% 1年生は達成している。2年生は昨年と比べると変化はないが、3年生は改善がみられる。最終学年として、授業に対する姿勢が集中したものになってきていると思われる。1年生はこのまま継続できるようにする。 ②コロナ禍により例年と異なり現時点では、校内授業研究が遅れているため数値は、低い状態である。また、積極的に話し合い活動を取り入れられない場合もあるが、各教科で方法を工夫して行っている。		
		(2)家庭学習の習慣化を図り、自ら学ぶ意欲・態度を育てる。	○適度の宿題及び自学自習ノートの課題の提出・点検を実施する。 ○読書活動(朝読書も含む)を推進する。	⑤「期限内に提出物を出す」生徒の割合を88%以上にする。 ⑥月1冊以上の読書をする。	⑤89.3% ⑥80.9%				3	⑤1年生92.6%、2年生83.5%、3年生91.5% 2年生の達成率が低い。期限を守ることの大切さや意味を学年、学級、教科で引き続き指導する。 ⑥1年生84.0%、2年生80.2%、3年生77.6% 全学年とも目標値の達成には至っていない。引き続き、朝読書や図書館利用を推進する。
	規律と活気のある学校	豊かな心と健やかな体を育て、活力ある生徒を育み、不登校の未然防止に努める。	(1)豊かな人間性と社会性を育てる。	○JASMIN(東広島スタンダード)を徹底させる。 ○部活動、体育大会、文化祭等の取組を充実させる。	⑦生徒の「JASMIN」についての取組を肯定的に評価する教職員の割合を100%にする。 JASUMIN(8項目)全項目において生徒の達成率の平均を90%以上にする。 ⑧主体的・創造的な活動(部活動、体育大会、文化祭など)の取組による達成率を80%以上にする。	⑦97.1% ⑧92.4%	3	2	⑦教職員100%、生徒94.2% 教職員、生徒ともに高い達成率である。今後も継続して指導する。 ⑧92.4% コロナ禍のため、体育大会を実施することができなかった。部活動の取組の数値から、分析すると高い達成率であった。今後もこの達成率を継続するように指導助言する。	
(2)健康の増進とたくましい体を育てる。			○健康教育・食教育の推進を図る。 ○新体力テストの結果を踏まえて、弱点克服のための補強運動を実施する。	⑨「給食を残さず食べようとする」生徒を90%以上にする。 ⑩男女共に「50M走」において県平均値を上回るようにする。	⑨81.4% ⑩33.3%	2				⑨昨年の同時期(90.4%)に比べ残さず食べるという意識は低下していることから、指導助言する。 ⑩特に2年生において課題が見られたことから、瞬発力を高めたり、スピードを高めるための運動を行う。
(3)不登校の未然防止、解決に向けた取組を充実させる。			○生徒指導部会(不登校対策委員会)で方向性を打ち出し、チームで取組を推進する。 ○スクールカウンセラーや心のサポーターの活用。	⑪不登校生徒の割合を全国平均以下にする。 ⑫不登校生徒等の家庭訪問実施率を100%にする。	⑪1.9% ⑫100%	2				⑪現時点では、昨年度の不登校の全国平均は発表されていない。不登校生徒数8名(1年女子2名、男子3名、2年男子1名、3年女子1名、男子1名)のうち、1年生が5名であり、小学校からの継続した不登校生徒である。今年度の最重点課題として不登校生徒の社会的な自立に向けた支援を保護者及び関係機関とも連携して推進する。 ⑫不登校生徒への家庭訪問は各担任により100%実施している。今後も継続を図る。
組織的運営をする学校	組織的な学校運営体制を確立し、保護者・地域に信頼される学校をつくる。	(1)生徒指導体制を確立する。	○「報告・連絡・相談」を徹底させ、組織的・積極的な生徒指導を行う。 ○教育相談体制を確立し、生徒理解を深める。	⑬「悩みを相談できる先生がいる」生徒の割合を80%以上にする。 ⑭SCによる新入生面談を100%実施する。	⑬82.5% ⑭100%	3	2	⑬引き続き生徒との信頼関係づくりに努める。 ⑭SCと連携し、新入生面談を行うことができた。今後も教育相談の充実を図る。		
		(2)小中接続教育を推進し、地域に開かれた学校づくりを推進する。	○2校の小学校との授業や行事を中心に交流し、小中接続教育を充実したものにする。	⑮「学級生活不満足群」の生徒の割合を10%以下にする。 ⑯Q-U等を活用した教育相談の実施率を100%にする。	⑮13% ⑯100%				2	⑮13%(53名)である。学級経営の充実とともに、個人面談や教育相談を通して「学級生活不満足群」の生徒へ個別に働きかける。 ⑯全学年夏休み前の三者懇談会でQ-Uの個票を配布し指導助言した。今後も教育相談活動を充実させる。
		(3)社会に開かれた魅力ある学校づくり(教育課程)を推進する。	○学校や地域に貢献する。 ○授業参観や学校だより、ホームページを充実させる。 ○資質・能力を育成する教育課程を創造する。	⑰環境美化活動、地域でのボランティア活動に積極的に取り組んだ生徒の割合を70%以上にする。 ⑱「磯松中学校で学ばせて良かったと思う」保護者の割合を90%以上にする。 ⑲行きたい学校(生徒)、行かせたい学校(保護者)、やりがいのある学校(教職員)の割合85%以上にする。	⑰64.6% ⑱97.1% ⑲92.3%				3	⑰1年生70.0%、2年生54.8%、3年生68.4% 今年度は、コロナ禍の中で、部活動ボランティアの実施が難しい現状があり、2、3年生は達成できなかった。今後は、1、2年生で環境美化活動や部活動ボランティアに取り組む。 ⑱1年生100%、2年生92.6%、3年生98.1% 全学年とも達成できている。今後も魅力ある学校づくりを推進する。 ⑲生徒85.3%保護者97.1%教職員94.4% 全学年とも達成できている。今後も生徒、保護者、教職員にとってやりがいのある学校づくりを推進する。
働き方改革の推進	学校における業務改善・業務削減を推進するとともに、教職員の働き方に対する意識を変える。	(1)部活動指導に係る教職員の負担軽減を行う。	○部活動方針に基づいた部活動休養日や部活動時間を徹底させる。	⑳部活動時間を設定し、下校時間を守る生徒を100%にする。	⑳91.3%	3	2	⑳部活動方針に基づき部活動運営ができている。今後は、下校時間を守り限られた時間の中で効果的・効率的な部活動を行う。 ㉑月80時間を超える教職員をなくすため、月毎、週毎、日毎の業務の見直しを立て業務を進めるように、改善を図る。また、生徒指導対応や諸帳簿の点検業務等も効率的な業務を行う。 ㉒授業、行事、部活動の教育活動の充実を図る。 ㉓目標指標を大きく上回った。今後も、より働きやすい職場になるように業務改善を推進する。 ㉔教職員が、年次有給休暇を取得しやすい環境づくりを推進する。		
		(2)教職員の働き方に対する意識を変える。	○早期・定時退校日を設定し、計画的に業務に取り組む。	㉑時間外勤務月80時間以上(年平均)の教職員を0%にする。 ㉒「子供と向き合う時間が確保できている」と感じる教職員を80%以上にする。 ㉓「所属校は働きやすい職場である」と感じる教職員を80%以上にする。 ㉔年次有給休暇10日(10回)以上取得する教職員を100%にする。	㉑22.3% ㉒77.8% ㉓95.7% ㉔73.9%				2	

【目標達成率】 X = 達成値/目標値 × 100

割合の評価 4(目標達成): X ≥ 100 3(ほぼ達成): 80 ≤ X < 100
2(もう少し): 60 ≤ X < 80 1(できていない): X < 60

【評価】

4...目標を上回って達成 3...目標どおり達成
2...目標を下回った 1...目標を大きく下回った